



TITLE:

熱帯農業經營の二つの型

AUTHOR(S):

八木, 芳之助

CITATION:

八木, 芳之助. 熱帯農業經營の二つの型. 經濟論叢 1942, 54(4): 399-412

ISSUE DATE:

1942-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/131666>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

經濟論叢

號四第 卷四十五第

月四年七十和昭

論叢

利子勢力説……………文學博士 高田 保馬

廣域經濟と廣域分業……………經濟學博士 谷口 吉彦

熱帶農業經營の二つの型……………經濟學博士 八木芳之助

世界恐慌後^{に於ける}英國海運政策の轉換……………經濟學士 佐波 宣平

研究

マルサス『人口論』の倫理學的基礎……………經濟學士 白杉庄一郎

協力工業とその問題の展開……………經濟學士 田 杉 競

說苑

戰時經濟に於ける完全操業度……………經濟學士 大塚 一朗

岩瀨忠震の思想的背景……………經濟學士 松 木 順

附錄

彙報

熱帶農業經營の二つの型

八木芳之助

熱帶農業は常に一年性作物を生産するのみならず、多年性並に永年性作物をも生産し、且つ運搬性並に保存・貯藏性とも聯關して收穫後加工を必要とすることの多きを以て特色とする。熱帶植民地の農業に於ては、植民者と原住民たる土人とが夫々農業經營の擔當者として並存する場合もあれば、また原住民は農業勞働者として管理者たる植民者に對して從屬的關係に立つ場合もある。従つて熱帶農業に於ては二つの甚だしく異なる對蹠的經營形態が認められる。即ち一は植民者によつて營まれる栽植企業又は栽植經營 (Plantation or Estate) これであり、他は原住民たる土人によつて營まれる土人農業又は土人經營これである。而して栽植企業に於ては、一般に廣大なる地積に大資本を投じ、雇傭勞力を用ゐて、溫帶諸國へ輸出せられる食料品又は工業原料品を生産するに對し、土人農業に於ては家族勞働力を以て、主として自家の生活に必要な農産物を生産するものである。故に一般に前者が營利を目的とする企業的經營なるに對し、後者は自給自足的家族經營たる性格を有する。

栽植企業概念に關し、ワイベルは「栽植企業とは一般に歐人の指揮下に大量の勞働及び資本を使用して市場のために大規模に植物性生産物を産出する農業的・工業的大經營である¹⁾」と定義し、ロストックは「栽植企業とは資本主義的基礎の上で世界市場のため園藝的生産物を産出する農業的・工業的大經營である²⁾」と定義してゐる。

1) Leo Waibel, Probleme der Landwirtschaftsgeographie, 1933, S. 22.
2) K. P. Rostock, Das Standortproblem in der tropischen Plantagenwirtschaft. (Koloniale Rundschau, Jahrg. 1932, Heft 7-8) S. 211.

奥田教授は栽植企業（一）の概念に關し、「栽植企業とは植民地に行はるゝ大農經營であつて、(1)大規模な植物生産物の加工設備を有し、(2)企業者は、自己よりも文化の程度の低い異民族を勞働者として使用し、(3)生産物の販路は主として之を世界市場に求むるものである」と定義し、更に根岸教授は熱帯栽植企業（二）の概念について、「熱帯栽植企業とは資本主義的原理に基き世界市場目的を以て資本主義國が自國の資本、技術及び經營能力を以て熱帯植民地に於て中央集權的管理下に原住民或は輸入勞働者を組織的に使用し、開拓、栽植、蒐集し、以て所謂植民地物産又は貿易的作物——香料（胡椒、丁香、肉桂）、藥料（靨那）、嗜好品（咖啡、カカオ、茶、砂糖、烟草）、原料（棉、麻、護謨、椰子）等——を大農組織にて生産するをいふ」と定義してゐる。

以上の諸定義よりして明白なるが如く、(1)栽植企業は熱帯植民地に於て行はれる大規模農業經營にして、(2)植民者たる企業者は營利原則に基き、(3)自國の資本及び經營能力と原住民勞力又は移入勞力とを結合し、(4)中央集權的管理を以て、(5)世界市場に販路を求むべき作物たる香料、藥料、嗜好品、その他植物性工業原料品の生産に當り、(6)且つ屢々大規模なる加工設備をも有するものである。之に反し土人農業は、(1)家族勞働に依存する小規模經營にして、(2)自家の生計のための生業であり、(3)従つて自給自足のための食糧生産を主眼とし、(4)商品作物を栽培することあるも、寧ろ之は第二次的意義を有するに過ぎないものである。

二

先づ茲では栽植企業と土人農業とを對比しつゝ、兩者の性格を一層明白ならしめようと思ふ。

(一) 栽培作物の種類 栽植企業に於ては世界市場に販路を求むべき商用作物が専ら栽培される。此等の栽培作物のうち、(1)多年生作物の主なるものは、護謨、咖啡、茶、油椰子、龍舌蘭、ココ椰子、カカオ、靨那、ガボ

3) 奥田義氏、瓜哇農業論（農業經濟研究、昭和十四年九月）一三一頁。
4) 根岸勉治氏、栽植企業方式論（昭和十四年）五五頁。

ック等であり、(2)一年生作物の主なるものは、甘蔗、煙草、揮發性油脂作物等である。

土人農業に於ては主として生活用作物が栽培せられるものであつて、商品作物が栽培されるも、之はせいゝ地方市場用商品である場合が多く、また土人農家より出る輸出農産物は白家用に消費した残量に過ぎない場合が多い。土人農業の栽培する作物のうち、(1)一年生作物の主なるものは、稻、玉蜀黍、キャッサバ、甘藷、馬鈴薯、落花生、大豆、その他の蔬菜、煙草、甘蔗、胡麻、蕃椒、蓖麻、棉花等であり、(2)多年生作物の主なるものは、ココ椰子、カボック、珈琲、茶、カカオ、胡椒、肉荳蔻、丁子、肉桂、サゴ椰子、謨謨等である。

ある種の作物が栽植企業に於て栽培せられることにより、適してゐるか、若くは土人農業に於て栽培せられることにより、適してゐるかは、左の如き其の作物自體の性質によつても決定せられる。

(1)栽植してから收穫に至るまでの期間の長短、或る種の作物にして栽植してから收穫に至るまでの期間が長きときは、勢ひ投資に對する報酬が延期されることとなるから、資力の乏しい土人は一般に斯かる作物を栽培するを得ない。従つて斯かる永年性作物の栽培は栽植經營に適することとなる。

(2)栽培作物の要求する勞働需要、栽植企業に於ては、多數の原住民たる土人の勞働力若くは移入勞働力を雇傭するを常とする。従つて栽植企業に於ては、勞働需要が月々平均してゐる作物を栽培するに適してゐる。然るに勞働需要に著しい季節的繁閑の差ある作物にありては、臨時に高賃銀を以て勞働者を雇傭せざるを得ず、従つて斯かる作物の栽培は栽植企業の採算を不利ならしめることとなる。然るに土人農業に於ては栽植企業の如き營利原則によらず、加ふるに土人農業に於ては、栽植企業の如く一種の作物のみを栽培する單作(Monoculture)によらず種々の作物を栽培する複作(Polyculture)によるを以て、勞働需要を月々平均化せしめるやう栽培作物を組合す可能

性がある。

(3)栽培作物の要求する加工度 熱帯農業に於て生産せられる農産物は一般に温帯諸國へ輸出せられるを以て、その商品價值を高めるためには、加工によつて保存性を増大すると共に、また加工によつて運搬費を節約する必要がある。即ち熱帯農産物たる甘蔗、珈琲、生護謨、麻等は何れも或る程度の加工度を以て輸出される。従つて加工行程に巨額の設備資本を要する場合に於ては、土人農業は斯かる作物を栽培するを得ない。假令かゝる作物を栽培するにしても、土人農業は加工工場設備を有する栽植企業に、加工原料として之を提供せざるを得ないこととなる。⁵⁾

この際注意すべき點は、斯かる栽植企業向き作物と土人農業向き作物との區別は、決して永久不變的・宿命的なる區別ではないことである。即ち土人の資力が増し、その技術が向上するに伴つて、兩者の限界は漸次薄らぐべき筈である。

(二)作物の栽培方式 栽植企業は輸出向き農産物を栽培するを以て、その栽培方式は一般に一種の作物のみを栽培する單作經營(Monoculture)の形態を採る場合が多い。蓋し斯かる單作經營は商品生産に能率よき農業の専門化を意味するからである。然るに土人農業は營利のためではなく、生活のための生業であるから、自家の生活に必要な各種の作物を栽培することとなり、その栽培方式は一般に複作經營(Policulture)となる。かゝる作物の栽培方式より見たる栽植企業と土人農業との區別は決して嚴格なるものではない。最近では企業利潤の均衡化を圖るため、また危険分散を圖るため、栽植企業に於ても複作經營へと轉向しつゝあるものもある。またジャヴァでは左の如き理由で、栽植企業にして複作經營の形態を採つてゐるものも少なくはない。

5) 根岸勉治氏、上掲書、六五頁以下參照。

I. C. Greaves, Modern production among backward peoples, 1935, p. 74.

即ちジャヴァでは、土地が豊沃なる上に、その地勢が複雑であり、その氣候は溫和なる上に、その氣溫及び雨量の分布は、立體的にもまた平面的にも、不均一であるから、種々なる熱帶作物を栽培し得る。加ふるにジャヴァでは人口稠密にして、土人勞働力の雇傭が容易であるから、ジャヴァの栽植企業は複作經營の方式を採り易い。ジャヴァの栽植企業に於ては、單作經營のものが漸く半數以上にして、護謨と珈琲との組合せ、護謨と茶との組合せ、規那と茶との組合せ等による複式經營が可なり普及してゐる。これに反し、斯かる自然的好條件に恵まれず、且つ勞働力に乏しいスマトラ、ボルネオ、セレベス等に於ては、栽植企業はより専門化し、その八五%以上は單作經營である。即ち一、二・二の栽植企業のうち、四五二は護謨、四三〇はコブラ、四〇は煙草、三八は珈琲、二五は茶、一九は油椰子、二一は或る他の一種の作物のみを夫々専門的に栽培してゐる單作經營である。尙ほ此等の東印度諸島に於ける栽植企業は、一般に一九二〇年以後の輸出農産物の暴落に對抗するため、經營の合理化、廣範圍の再編成、勞賃の大幅切下、經營の集約化等を行ひ、之によつて作物栽培をして再び收益をあげしめることゝなつたが、同時に從來單一作物の栽培を行つてゐた企業は、複作に轉換することによつて、危険を分散せしめた。⁶⁾

栽植企業に於ては市場生産を唯一の目標とするに對し、土人農業は生活用作物を主として栽培し、餘裕ある時に商品作物を栽培する。従つて規那、胡椒、油椰子、サイザル、護謨、珈琲、カカオ、甘蔗及び茶等が主として栽植企業によつて栽培され、米、玉蜀黍、落花生、胡麻、ココ椰子、檳榔、荳、甘藷、キャッサバ等が主として土人農業によつて栽培される。而して土人農業に於ては複作經營によつて此等の作物が栽培されるが、之には一定の輪作方式が採用される。例へば東部ジャヴァの人工灌漑の利く水田では、水稻、甘蔗、玉蜀黍、水稻、雜作の順

6) 奥田誠氏、前掲論文、一四二頁。

7) 奥田誠氏、蘭領東印度の農業(臺灣時報、昭和十五年六月)一二七頁。

8) W. K. G. Gretzer, Grundlagen und Entwicklungsrichtung der landwirtschaftlichen Erzeugung in Niederländisch-Indien (Berichte über Landwirtschaft,

序で輪作が行はれ、東部ジャヴァの畑地では玉蜀黍と豆(間作)、玉蜀黍と馬鈴薯又は豆(間作)、休閒の順序で輪作が行はれる等、地方によつて其の方式は多少異つてゐる。

(三) 經營規模と集約度 栽植企業と土人農業との經營面積を比較するに、栽植企業は多數の土人勞働力又は移入勞働力を雇傭して、大規模に輸向き農産物を生産するに反し、土人農業に於ては自家勞働力によつて主として自家生活用の農産物を生産するものであるから、その經營面積は栽植企業の方が遙に大なるは當然である。併し同じ栽植企業にしても、人口に比して土地の豊富なる地域と然らざる地域とによつて、その經營面積に差異を生ずるは當然であり、また經營の集約度も同様の事情によつて左右される。この事は土人農業に關しても妥當する。

例へばジャヴァに於ては、人口稠密にして、土地が早くから開拓されてゐたので、歐人栽植企業者は土人より平地に於ける耕地を七十五ヶ年の契約を以て借入れ、茲に甘蔗と煙草とを栽培し、規那、茶、珈琲の如き永年作物は土人の未だ利用せざる高地に之を栽培する必要に迫られた。然るにスマトラ、ボルネオ、セレベス等に於ては、人口稀薄にして土地が豊富であるから、油椰子の如く、その搾油設備に巨額の資本を要し、従つて二千ヘクタール以上の栽培面積を有するにあらざれば、企業的採算のとれない植物栽培が、茲にその立地を求めることになる。斯かる事情よりして、ジャヴァに於ける栽植企業園一、一六九の平均面積は八八三ヘクタールなるに、スマトラ、ボルネオ、セレベス等に於ける栽植企業園一、二二五の平均面積は一、一五三ヘクタールであり、前者に比して後者は約二割五分だけより大となつてゐる。⁹⁾ 同様の事情により、人口稀少にして土地の豊富なるボルネオ、スマトラ、セレベス等に於ては、栽植企業者は土地を租放的に利用して、一勞働單位當りの収益を高めんと

146 Sonderheft, 1939) S. 57.

9) 奥田誠氏、前掲論文(農業經濟研究、昭和十四年九月)一四三頁。

努めるが、ジャヴァに於ては土地を集約的に利用して一單位面積當りの収益を高めんと努めるのは當然である。

この事は、土人農業に關しても妥當する。即ち人口の稠密なるジャヴァに於ては、一戸當り平均水田經營面積は〇・八七ヘクタール、畑〇・五七ヘクタール、宅地〇・一六ヘクタールに過ぎない小規模であるから、ジャヴァでは土地を能ふ限り勞働集約的に利用する必要に迫られ、従つて茲では一單位面積當りの收量は相當に大であるが、併し一勞働單位當りの収益は極めて低い。之に反しスマトラ、ボルネオ、セレベス等では人口に比して土地が豊富であるから、茲では土人農業の經營面積はジャヴァに於けるよりも廣く、焼畑式による換地農業さへ行はれてゐる。茲では土地が豊富であるから、土人農業は土地を粗放的に利用し、自家の生活用作物の外に、商品用作物をも栽培する餘裕を有し、従つて一勞働單位當り収益は、ジャヴァに於けるよりも高い。

(四) 經營の目標 栽植企業に於ては企業者は自國の資本及び經營能力と土人の勞働力とを結合して、營利原則に基いて、大規模に輸出農産物を生産するものであるから、その經營の目標は投下資本に對する可能的最高利潤の獲得に置かれてゐる。従つて栽植企業に於ては、企業者は優秀なる技術と強大なる資本力とを以て、廣大なる未墾地を開拓し、加工設備に多額の資本を固定化し、低廉なる多數の土人勞働力を雇傭して、世界市場に適する品質の統一せる高級品を生産して、以て營利を圖る。栽植企業は斯かる營利原則に基いて栽植經營の合理化に努め、生産品の品質改良に努力する。されば栽植企業に於ては、新式の農業技術を應用し、農作物品種の改良を圖り、また經營内部に有利なる新作物を導入することに努める。而して栽植企業にありては、最初は現存の需要條件の下に於て最も利潤多き作物を選択して之を栽培するが、併しこの需要條件にして變化するときは、地質、雨量その他の自然條件の許す限り、他のより有利なる作物栽培へ轉換せんと工夫するものである。されば「栽

10) 奥田武氏、瓜哇土民の農業(農業と經濟、昭和十五年八月)八頁。

11) J. V. Gelderen, Western enterprises and the density of the population in the Netherlands Indies (B. Schrieke, The effect of western influence, 1929) p. 95.

植企業成功の鍵は、生産物の價格變動を防止するに在るのではなく、寧ろ價格水準の變化に生産費構成を適合せしむるに在る」と從來云はれてゐた。¹²⁾

然るに土人農業に於ては、經營者は智力も資本力も無く、自家勞働力を小面積の土地に投じて、主として生活用作物を栽培し、之を以て生計を立てるものであるから、その營む農業は生活のためのものであり、それは謂はゞ生業に外ならない。而して土人農業に於ても商品化作物の栽培をなすやう促されることがあるも、その動因は營利にあるのではなく、寧ろ生活の向上にある。即ち「土人の生活程度が高ければ高い程、その解決は、より多く支拂はれる勞働日のうちに、また家族にとつて仕事のない期間の除去のうちに求められる。この事は、多量の勞働を吸収する價值ある換金作物の栽培によつて、また在來の輪作式——そこでは二つの栽培季節間の農閑期が充ち分なる時間を餘す——に他の作物を挿入することによつて、果される」併し自給食料生産を主とする土人農業が、恐慌に對して案外強い抵抗力を示す場合がある。例へばスマトラに於ては、土人は原始林を焼拂つて稻を播き、其の間作として護謨樹を植え、殆ど手入をなさずに之を放置し、數年後に採液 (tapping) をなし得るに至れば採液を分配する實物勞賃制で勞働者を雇入れるから、護謨生産のためには殆ど現金支出を要しないこととなる。従つて護謨の價格が下落しても、採液を中止する必要がない。栽植企業では既に採算のとれないやうな護謨恐慌の際にも、斯かる土人經營は一方に於て其の食料生産を以て自活し得るから、依然採液を續けることが出来る。¹⁴⁾品質の點に於ては劣るとは云へ、土人護謨が歐人栽植護謨に對して一大脅威となつてゐる所以は實に茲にある。

(五) 勞働力の確保 栽植企業は多數の雇傭勞働者を必要とする。而して其の雇傭する勞働者は多くは生活程度の低い原住勞働者であるが、人口稀薄にして原住者勞働力の少ない處では、他地方又は他國より契約勞働者を

12) I. C. Greaves, op. cit., p. 184.

13) Van der Kolf, European influence on native agriculture (B. Schrieke, The effect of western influence) p. 119.

14) 奥田義氏、前掲論文、一四八頁。

移入せざるを得ない。従つて栽植企業にとりては、必要な數に上る労働者を調達し、然かも彼等をして規則正しく労働に従事せしめることが肝要である。栽植経営にとりて労働力の必要なる點については、「栽植経営を總體として決定する有ゆる要素のうちで、人間労働力の調達は遙に最も重要な要素をなす」とさへ謂はれてゐる。¹⁵⁾

栽植企業に於て幾何の労働力を必要とするかは、土地開墾の難易・経営面積の大小、栽培作物種類の如何等によつて決定される。最初の土地開墾に要する労働量は、地質、地勢並に繁茂樹木の如何によつて異なつて居り、一概に之を斷定するを得ないから、之を除外する。栽植企業に於ける作物栽培作業は、機械化されることが少なく主として人力によつてなされるから、比較的多くの労働力を必要とする。最も労働集約的な煙草栽培に於ては百ヘクタール當り一四三人、茶栽培は一二人、護謨栽培は六五人、油脂作物栽培は五〇人の労働者を必要とする。¹⁶⁾而して一般に熱帶の土人は、程度の低い生活を支持するに必要な程度以上の労働に服することを嫌ふものであるから、彼等をして規則正しく労働に服せしめるためには、彼等の慾望を刺戟して、新なる需要を充すため貨幣勞賃を自發的に獲得するやう彼等に促すか、若くは彼等に對して金納課税を設けて、一定額の勞賃を取得することを不可避的なしめる方法を採用することによつて、彼等をして規則正しく労働に従事するやう習慣づけることが必要である。

ジャバの如く人口稠密なる處では、栽植企業は附近の村落から、必要な數の労働者を容易に雇入れることが出来る。然かもジャバに於ては、土地狭く人口過剩のため、土人は從來の耕地のみでは樂な生活をなし得ないから、栽植経営で賃勞働に従事することによつて生活費の不足を稼ぐ機會を得ることとなる。而してジャバに於ける栽植企業の労働者には、栽植農場附近の村落から農閑期に働きに來る通勤労働者と、栽植農場内に企業

Van der Kolf, op. cit., p. 120.

15) H. Sternberg, Die Arbeiterverhältnisse auf den unter europäischer Leitung stehenden Plantagenbetrieben in der Provinz „Ostküste von Sumatra“ (Berichte über Landwirtschaft, Bd. X. Heft I, 1929) S. 45.

者から提供される労働者住宅に住む住込労働者との二種がある。

然るに人口の稀薄なるスマトラ、ボルネオ、セレベス等に於ては、栽植企業者はジャヴァ、支那、印度等より契約労働者(苦力)を移入せざるを得ない。従つて茲では勞賃の外に、苦力の募集費、苦力小屋の建設費、醫療費等を要することとなり、ジャヴァに較べて其の勞働費は高くつく。この苦力に對しては、一方に於て社會政策的見地より彼等を保護するため、他方に於て彼等をして規則正しく勞働に服せしめるため、一九一一年に苦力令が發布され、その後屢々改正されてゐる。即ち一方に於て、勞働契約期間・勞働時間・勞賃・住宅・無料診療設備・契約期間満了後の郷里への送還等について規定すると共に、他方に於て苦力が契約に違反して逃亡せるときは之を處罰するやう規定してゐる。

ジャヴァの栽植企業に於ける労働者に對する勞賃の支拂方法としては、日給制と出來高拂制との二種が行はれてゐる。前者は仕事を入念にすべき場合、若くは仕事の出來高を測定することの困難なる場合に採用され、後者は出來榮が粗雑でもよいが仕事を成るべく早く完了すべき場合、若くは仕事の出來高が比較的簡單に測定出來る場合に採用される。即ち茶葉の摘取、龍舌蘭の刈取、護謨の採液等には出來高拂勞賃制が採用されてゐる。而して此等の農業労働者を監督するため、經營者の外に、農場管理者、農務係長、農區主任、補助監督等の役員が置かれてゐる。¹⁷⁾

然るに土人農業に於ては主として自家勞働力によるものであるから、雇傭勞働力を用ひることは稀である。併し土人農業に於ても時としては労働者を雇入れることもあるが、斯かる場合には貨幣勞賃を支拂ふこと少なく、收穫物の一部分を以てする實物勞賃の形式を採ることが多い。例へば稻作に於て田植と刈取とを手傳つてその收

16) H. Sternberg, a. a. O. S. 46.

17) 奥田蔵氏、前掲論文(臺灣時報、昭和十五年六月)一一七頁。

H. Sternberg, a. a. O. S. 61.

穫の五分の一を取得するが如き、或はボルネオ、スマトラの土人護謨園に於て、採液に勞働者を雇入れて、採液量の半分を實物勞賃として與へるが如き之である。

(六) 土地の獲得 栽植企業者は其の經營のために廣大なる土地を必要とするが、多くの場合、企業者は官有地の拂下を受ける。例へば佛領印度支那では、栽植企業は専らコンセッションとして設定された地區に於て行はれる。而して此のコンセッションとは官有地の拂下げによつて所有權の附與せられる地區を意味するものであり、一九一三年の總督令の定めるところである。即ち三百ヘクタール以下の土地は小農獎勵のため無償で拂下げられるが、三百ヘクタール以上一千ヘクタール迄の土地は地方長官、一千ヘクタール以上四千ヘクタール迄の土地は總督、四千ヘクタール以上の土地は大統領令の規定する競賣に附せられる。競賣後、實際に土地を開墾し、且つ官憲の實地檢證に合格せるもののみが、土地の確定的所有權を取得する。¹⁸⁾このコンセッションは土人を排除するものではないが、實際には之によつて土地の交付を受けるものは、主として佛人その他の歐人である。

ジャヴァ、スマトラ、ボルネオ、セレベスに於ては、一八七〇年の土地法並に土地令によつて、所有權の確認せられない土地は總て之を國有地に編入することに定められた。而して之によつて國有地となつた土地は、エスデイトとして、七十五ヶ年の期間を以て栽植企業者に貸付されることとなつてゐる。この借受地の最大面積は、一箇所につきジャヴァでは五〇〇バウ、スマトラ、ボルネオ、セレベス等では五、〇〇〇バウと定められてゐる。

併しジャヴァの平地では、土地は土人によつて總て占有され、貸付さるべき國有地がないから、栽植企業者は土人の占有する耕地を借受けて煙草や甘蔗を栽培する。この場合、土人農業を保護する見地より、栽植企業による土人耕地の賃借は、土人占有耕地の三分一以内に限ることとなつてゐる。而して栽植企業たる製糖會社や煙草

18) 逸見重雄氏、佛領印度支那研究、——一頁。

會社の賃借耕地は、多數の村落に分散して居り、そこでは三年輪作が行はれるから、土人農業も之に順應する土地利用方式を採らざるを得ないこととなり、之によつて其の經營の自律的發達が損はれる。

土人農業に於ては一般に小規模の土地が耕作されるが、それには自作農又は之に類する方式による場合と、また分益小作その他の小作方式による場合とがある。尙ほジャヴァの如く人口稠密で耕地の狭小なる處では、宅地利用が進んで居り、カボック、ココ椰子、檳榔、果樹、食用作物、蔬菜等の栽培によく利用されてゐる。

(七) 加工設備 熱帯農業に於ける商品化作物は、一般に遠隔の溫帯消費市場へ搬出せられるが、この場合、その保存性を増大するため、また運搬性を高めるため、或る程度の加工を必要とする。而してこの加工については、農産物の種類の如何により、簡單なる加工を以て足るものと、また加工の爲めに大規模の工場設備を要するものととの差がある。例へばコブラ、胡椒、檳榔、カボック、キャッサバ、香水茅等の如き前者に屬し、油椰子、サイザル等の如き後者に屬する。而して土人は大いなる加工設備をなす資力を有しないから、土人農業に於ては前者の作物は之を栽培し得ても、後者の作物は之を栽培するを得ず、専ら栽植企業に其の栽培を委ねざるを得ない。この外、醗酵、結晶、脱色、乾燥等に綿密なる操作技術と相當の資本設備とを要する加工は、土人農業に於て之を望み得ない。例へば土人護謨には品質の均一性が無く、含水量が高く、國際商品として適しないから、栽植企業の精製工場が土人護謨を購入して、乾燥し、貿易品となすが如き、或は土人は甘蔗より赤糖を作り得るも之を白砂糖となし得ないから、製糖工場に於て之を作る必要あるが如き、或は煙草、茶、カカオ等の如きも、良質のものを得んとすれば、精巧なる醗酵處理を必要とするを以て、土人農業に於ては之を望み得ざるが如き、その適例である。¹⁹⁾

かくて栽植企業に於ては、一般に大規模の加工設備を有する場合が多い。これ斯かる栽植企業が「農作工業」(Lanthanindustrie)と呼ばれる所以である。従つて加工設備を有せざる土人農業者は、栽植企業に對し原料生産者たる關係に立ち、前者に對し從屬的地位に置かれる場合も起る。

(八) 企業管理組織 栽植企業は廣大なる經營面積を有する點に於て土人農業と異なるのみならず、また經營組織の點に於ても異つてゐる。即ち栽植企業は中央管理下に於ける一律的耕作方式を意味するものにして、一般に企業者たる雇主が自己の土地に於て雇傭労働者を使用し、企業者が其の手中に中央集權的管理權能 (directing authority) を握る點に、その特徴が認められる。²¹⁾ 併しながら、これは必ずしも自營農場たることを意味するものではない。假令、農園は形式上小經營に細分されてゐても、實際上中央集權的管理下に一元的に統制されてゐる場合、即ち栽培品種、作付時期及び技術的作業等が中央集權的管理權能によつて統一されてゐる場合には、此等の小經營は其の獨立性を失ふを以て、栽植企業方式に包括さるべきである。例へばフィジーに於ける甘蔗栽培耕作者は、工場の農業顧問によつて完全に支配されるを以て、栽植企業方式に加へられることとなる。然るに比律賓の椰子實栽培に於けるが如く、大地主が分益小作制に基いて其の土地を小耕作者間に分與し、生産物の分前を蒐集するに過ぎない場合には、管理は全く耕作者の手にあるを以て、かゝる耕作方式は栽植式よりも寧ろ農民式に類することとなる。²²⁾

かゝる栽植企業に反し、土人農業に於ては小面積の土地の上で、家長は専ら其の家族員を指揮して作物栽培に當るものである。

三

以上に互り、熱帶地方に於ける農業經營の二つの型たる栽植企業と土人農業とを比較・論評し、各々の性格と

20) W. K. G. Gretzer, a. a. O. S. 48.

21) E. T. Thompson, Population expansion and the plantation system. (The American Journal of Sociology, November, 1935) p. 314.

22) I. C. Greaves, op. cit., p. 67-68.

兩者の差異とを明らかにした。要するに土人農業は家族勞働力による小農經營であり、主として生活用作物を栽培するに對し、栽植企業は雇傭勞働力に依存する大規模經營にして、専ら商品作物を栽培するものである。

熱帯地方に於て栽植企業が發達することによつて、(1)土人に勞働の機會、勞賃獲得の機會を與へ、土人の生活を幾分ながら容易ならしめたること、(2)栽植企業は農業科學智識の應用により、新作物の移植に成功せるが、その結果、土人農業にも此等の新作物を導入するやう促したること、(3)栽植企業が品種の改良、栽培方法の改善、肥料使用の改善等を圖ることによつて、土人に對し農業經營の範を示し、之によつて土人農業の改良を促したること等は、栽植企業の土人農業に與へた好影響である。

然るに他方に於て、(1)栽植企業はエステートとして廣大なる官有地の拂下げを受けるか、若くは之を永租借するを以て、後日、土人農業者の人口増加を來し、耕作すべき土地を求めんとするも、新に開墾すべき餘地なく、之によつて土人の生活を壓迫せること、(2)特にジャヴァの平地に於ては、既述の如く栽植企業たる製糖會社や煙草會社は土人農業者より耕地を賃借し、三年輪作を行ふを以て、土人農業も之に順應する土地利用方式を採らざるを得ず、之によつて其の經營の獨立的發達を害したること等は、栽植企業の土人農業に與へた悪影響である。

今や我國は大東亞共榮圈に於て、食糧の自給と原料資源の確保とを圖るべきである。このためには共榮圈内の自給に必要な農産資源に就ては、之が増産を圖るべく、過剰なる農産資源に就ては寧ろ他作物への轉換を圖るべきである。従つて南方熱帯地域に於ては、農産物の種類並に其の生産數量に對し適當なる統制を加へることが必要である。而して南方熱帯地域に於て農業生産を擔當するものには、栽植企業と土人農業との二經營形態が存在するを以て、上述せる兩者の特質並に性格を充分に研究し、我國の大東亞農業政策の目標に合致するやう、兩經營を處理し、その經營原則、栽培作物等に對し、適當なる指導統制を加ふべきであらう。(昭和十七年三月七日)